

コロケーション情報による 連体詞型接辞性字音形態素「本」の考察

張 明

[キーワード：①連体詞型 ②接辞性字音形態素 ③「本」 ④語種 ⑤意味分野]

1. はじめに

前接の造語成分として、「本大学」「本調子」「本建築」「本会議」などのように、「本」は多様な意味で使われている。『新選国語辞典』第九版（小学館、2011）では、次のように記述されている。

- (1) **造** **接頭** ①ほんとうの。うそでない。「本気・本心・本物・本調子」
②正しい。正式の。「本式・本選・本契約・本建築」
③おもな。中心になる。「本館・本国・本線・本会議」

- 連体** **接頭** **造** ①ほかではなく、そのもの。「本人」
②この。今話題にしている。「本日」「一校創立三十周年」

本稿は、そのうち、(2)のように、「この」「今話題にしている」という意味で解釈され、連体詞的な性格を持つ接辞性字音形態素「本」を「連体詞型接辞性字音形態素「本」と呼ぶ。そして、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下 BCCWJ と省略）より収集した用例に基づき、「本」はどのような後接語と結合するのを中心として考察し、「本」の結合機能を明らかにした上で、意味添加機能（「本」の意味用法）の実証的な分析の基礎を固める。

- (2) それ以来、本法律案の制定に向けて御努力をされた多くの関係者の皆さんに心から敬意を表したいと思います。本法案につきましては、既にこれまで社会党を代表して松本龍議員、伊東秀子議員、坂上議員等々からいろいろと御質問をさせていただきました。 (第129回国国会議録、1994)¹⁾

2. 二種類の「本」

接辞性字音形態素「本」は、後述するように、「本（～○日・～大学・～年度）」タイプと、「本（～会議・～場所・～調子）」タイプがある。実際、『新選国語辞典』もこの2タイプを分けて記述している。すなわち、2タイプの間には何らかの違いが見られると考えられるだろう。だが、それぞれのタイプがどのように位置づけられるのかを確認するまえに、「接辞性字音形態素」について説明する。

2.1 接辞性字音形態素の定義及び分類

「接辞性字音形態素」という用語は山下（2013）が提唱したものである。山下（2013）では、接辞性字音形態素の定義を以下のように述べている。

- (3) 野村雅昭（1978、p.104）では、「すでに存在する、和語・外来語の語基、および、字音複合語基、そして、それらの結合形に、前部分あるいは後部分から結合する、字音形態素」を「接辞性字音語基」と呼んでいる。本稿の「接辞性字音形態素」は、この「接辞性字音語基」と重なるものである。

（同：83）

そこで、本稿は野村（1978）に規定されている「接辞性字音語基」の定義を借用する。つまり、定義としては、本稿の「接辞性字音形態素」は野村（1978）の「接辞性字音語基」と同じものである。ただし、「接辞」と「語基」は相補的な別概念を指しているものであり、「接辞性字音語基」という、一つの用語に「接辞」と「語基」が同時に使われる名称に多少違和感を覚えるため、「接辞性字音形態素」という用語を使うことにする。

また、2種類の「本」を位置づけるために、前部分の接辞性字音形態素の分類を確認しなければならない²⁾。

野村（1978）は現代新聞の用例をもとに、接辞性字音語基の用法の分類について詳細な考察を行っている。前部分の接辞性語基の分類は、「前部分語基と後部分語基の品詞性、および、その結合関係によったものである」（同：112）とし、異なり語数250の前部分の接辞性語基を「①体言型」「②連体修飾型」「③連用修飾型」「④連体詞型」「⑤用言型」「⑥否定辞型」「⑦数量限定型」「⑧敬意添加型」の8つに分類した。それぞれの分類に以下のようなものがあるという³⁾。

- (4) ①体言型…党（～大会）・核（～爆発）・都（～知事）・脳（～細胞）・県（～議会）・女（～生徒）・軍（～首脳）・税（～負担）
②連体修飾型…大（～都市）・中（～学校）・小（～規模）・高（～気圧）・低

(～姿勢)・新(～幹線)・古(～美術)・重(～機械)・軽(～金属)・好(～記録)・悪(～天候)・長(～距離)・短(～時間)・名(～選手)・同(～年配)・乱(～気流)・活(～火山)

③連用修飾型…再(～検討)・最(～年少)・既(～発表)

④連体詞型…同(～議員)・本(～○日)・前(～会長)・現(～総裁)・旧(～陸軍)・今(～国会)・来(～シーズン)・故(～○○氏)・副(～総理)・準(～決勝)・全(～日本)・総(～選挙)・各(～省庁)・両(～陛下)・諸(～外国)

⑤用言型…反(～政府)・超(～党派)・対(～共産圏)・有(～意義)・過(～保護)・要(～注意)

⑥否定辞型…無(～意識)・不(～明朗)・未(～発表)・非(～協力的)

⑦数量限定型…第(～○日)・約(～○分)・満(～○歳)

⑧敬意添加型…御(～婚礼)・令(～夫人) (同：112)

そのうち、②連体修飾型と④連体詞型の区別が恐らくわかりにくいところがあるだろうと思われる。野村(1978)の説明に従い、音声・構造・修飾関係という三つの側面から両者の区別をまとめると表1のようになる。

表1 ②連体修飾型と④連体詞型の特徴(野村1978による)

	②連体修飾型	④連体詞型
音声	前部分と後部分との間に、ポーズが置かれるものがない。	前部分と後部分との間に、ポーズが置かれるものがある ⁴⁾ 。
構造	I. 「形容詞(形容動詞)語幹+名詞」の構造に擬せられるものである。 ex. 低姿勢→低い姿勢 悪天候→悪い天候 名選手→すばらしい選手 II. 動詞的なものも含まれる。 ex. 乱気流→乱れた気流 活火山→活きている火山	「形容詞(形容動詞)語幹+名詞」の構造に擬せられるものではない。
修飾関係	後部分の内容にかかわるものであり、その性質や状態を説明するものである。	文脈内での指示、他者との関係の表示、範囲・量の限定など、直接、内容にかかわらないものである。

2.2 二種類の「本」の位置づけ

(4)を見ると、接辞性字音形態素「本」は、④連体詞型に分類されることが明確に示されている。しかし、上にも述べたが、「本」には大きく分けると、2種類がある。「本(～

○日・～大学・～年度)」タイプと、「本（～会議・～場所・～調子）」タイプである。この2種類のどちらも④連体詞型に分類されてもいいといえるだろうか。実は、野村(1978)も、「本（～○日・～大学・～年度）」の「本」を、この類（引用者注：④連用詞型）に入れることはみとめられても、「本（～会議・～場所・～調子）」の「本」を、②と④のどちらに属するものとみるかというような点で、問題はのこる」（同：113-114）というように、筆者と同じ疑問点を抱いており、結局、「本（～会議・～場所・～調子）」の「本」がどのように位置づけられるかは明確にしていない。

結論からいえば、本稿は、「本（～○日・～大学・～年度）」タイプの「本」を④連体詞型、「本（～会議・～場所・～調子）」タイプの「本」を②連体修飾型とする。

まず、「本大学」「本研究」「本法律案」などは「本」と後接語の間にポーズが置かれることが確認できる⁵⁾。また、「この大学」「この研究」と解釈され、「形容詞（形容動詞）語幹+名詞」の構造に擬せられるものではない。さらに、文脈内での指示を表し、直接内容にかかわらないものである。したがって、このタイプの「本」を④連体詞型に分類する。

それに対して、「本（～会議・～場所・～調子）」タイプは、まず、「本」と後接語との間にポーズが置かれない。一続きで発音されるのが一般的であろう。また、「本会議」は「もととなる会議、中心となる会議」、「本場所」は「本番の興行」、「本調子」は「本当の調子」という意味で使われ、厳密に「形容詞（形容動詞）語幹+名詞」の構造に擬せられるものではないかもしれないが、後部分の状態や性質を説明するものであり、連体修飾的な結合関係を構成するのは確かなことであろう。したがって、このタイプの「本」は②連体修飾型であると位置づけることはさほど問題がないと考えられる。

3. 資料と考察対象

本稿では、資料として、BCCWJを使用した。「短単位検索」という検索方法を使い、「WHERE 句」をキーとして検索した。「WHERE 句が書字形出現形 LIKE "本%" AND 語彙素読み = "ホン" AND 品詞 = "接頭辞" という条件で検索し、5639 件の検索結果を得た。結果は表2のように示される。

表2 BCCWJ から収集した用例数

	用例数
連体詞型接辞性字音形態素用法	3246（異なり語数は541）
連体修飾型接辞性字音形態素用法	1427
ゴミとして排除されるもの	966
合計	5639

「ゴミとして排除されるもの」には主に2種類がある。第一に、検索条件に一致しないタイプである。(5)のように、「語彙素読み = "ホン"」を指定したにもかかわらず、「ホン」と読まないものが検出されたケースもあれば、(6)のように、「品詞 = "接頭辞"」を指定したにもかかわらず、接頭辞ではないものが検出されたケースもある。第二に、「接辞性字音形態素」の定義により、(7)のように、「本」が一字字音形態素と結合し、二字漢語になる例も本稿では対象としない。

- (5) そのなかで遺品があつて問題となるのは、薬師寺金堂薬師三尊像の養老・神亀ごろの新鑄説と、藤原京木殿にあった本薬師寺の持統天皇二年ないし十一年ごろの三尊移遷説が美術史の方で話題になっています。

(『藤原鎌足』. 思索社. 1992)

- (6) 前略ひじょーに面白い本二冊を送って頂きありがとうございました(ただし一ヵ月前)。

(『水木しげるの妖怪探検』. 講談社. 1999)

- (7) 全国的に見ますと、恐らく本県はまだまだ追いつかないのではないかと思います。ですが、第五次五カ年計画が修了した段階での全国の普及状況と、……

(第104回国国会議録. 1986)

また、本稿は連体詞型の「本」を研究対象として考察するものであるため、連体修飾型の「本」は対象外とする。しかし、次の「本契約」の例文からわかるように、前後文脈により、(8)のように、「この契約」と解釈され、連体詞型になる場合もあれば、(9)のように、「正式の契約」と解釈され、連体修飾型になる場合もある。本稿では、すべての用例は前後文脈を参考にして、連体詞型か、それとも連体修飾型かを手作業で分類した。

- (8) 日本の契約書には、必ず「本契約に疑義ある時は甲乙協議して定める」という条文を加え、それによって細則を省略するのがつねだ。

(『日本とは何か』. 講談社. 1991)

- (9) 手付けを打って、仮契約にするという方法もあるはずですよ。本契約は退去後に見てから。もしそのとき契約しないのであれば手付けは返ってきませんが、失敗するよりはいいでしょう。

(Yahoo 知恵袋. 2005)

4. 調査結果

調査結果は主として、後接語の語種と意味分野を中心に考察していく⁶⁾。

4.1 語種について

表3は「本」の後接語の語種についての調査結果を示したものである。

表3 「本」の後接語の語種別語数と比率

語種		異なり語数	延べ語数
漢語	二字漢語	251 (46.40%)	2210 (68.08%)
	三字漢語	94 (17.38%)	547 (16.85%)
	四字漢語	56 (10.35%)	115 (3.54%)
	五字漢語	28 (5.18%)	61 (1.88%)
	六字以上の漢語	9 (1.66%)	11 (0.34%)
	小計	438 (80.96%)	2944 (90.70%)
和語		9 (1.66%)	22 (0.68%)
外来語		70 (12.94%)	245 (7.55%)
混種語		24 (4.44%)	35 (1.08%)
合計		541 (100%)	3246 (100%)

表3から、異なり語数も延べ語数も、「漢語・外来語・混種語・和語」という順に語数が多いことがわかった。漢語の語数は、ほかの語種と比べて、圧倒的に多い。異なり語数で80%、延べ語数で90%を超えている。注目されるのは、二字漢語の延べ語数の比率が68.02%であり、三分の二は二字漢語である。しかも、延べ語数の比率が異なり語数より数値が高いのは二字漢語のみである。使用頻度が高く繰り返して出現する二字漢語が多いことがわかる。それに対して、外来語も混種語も和語も、延べ語数の比率は、異なり語数より低くなる。

語種ごとに具体的にどのような語が「本」と結合するのかを表の形にまとめる。レイアウトの関係で、全語種を一つの表にまとめるのが不可能なため、漢語を表4、和語・外来語・混種語を表5にまとめる。また、詳細は最後の付録に譲るが、ここでは、各語種の語数の上位10位の語を語数の多い順にまとめた結果を示す。

4.2 意味分野について

「本」の後接語の意味分野については、『分類語彙表 増補改訂版』（大日本図書、2004 以下『分類語彙表』と省略）を参考にして、分類を行った。ただし、『分類語彙表』に収録されていない語は、筆者自身の判断で分類する。また、後接語の意味分野を分類する際、文脈的要素も考慮に入れるため、『分類語彙表』は参考として使用し、必ずしも一致しているとは限らない。例えば、「ページ」という後接語があり、『分類語彙表』

表4 「本」の後接語が漢語である具体例

	二字漢語		三字漢語		四字漢語		五字漢語		六字以上漢語	
	語例	語数	語例	語数	語例	語数	語例	語数	語例	語数
1	年度	564	委員会	191	免責条項	10	附帯決議案	12	公益法人分科会	2
2	制度	104	法律案	104	報告期間	9	閣僚理事会	4	市民協働推進課	2
3	研究	86	決議案	22	小委員会	9	環境対策課	4	調査研究協力者会議	1
4	事件	82	改正案	20	補正予算	8	商工観光課	4	国土交通委員会	1
5	事業	82	報告書	18	会計年度	7	特別委員会	4	共同開発区域	1
6	調査	52	調査会	12	基本方針	6	環境管理課	3	商法改正問題	1
7	協定	48	研究会	12	保険制度	4	最高裁判決	3	社会保障計画	1
8	計画	46	症候群	10	交流会議	4	地域個体群	2	製造物責任法	1
9	条約	40	分科会	9	実証試験	3	調査研究会	2	選挙管理委員会事務局	1
10	問題	37	修正案	8	調査年度	3	都市整備課	2	—	—

表5 「本」の後接語が和語・外来語・混種語である具体例

	和語		外来語		混種語	
	語例	語数	語例	語数	語例	語数
1	申合せ	7	システム	22	ベディメント断片	6
2	取引	6	シリーズ	19	住居跡	4
3	建物	2	プロジェクト	16	アンケート調査	2
4	物語	2	ソフト	15	研究プロジェクト	2
5	場合	1	ブログ	14	子ども課	2
6	猫	1	トンネル	12	CT像	1
7	取極	1	プログラム	9	PKO法案	1
8	取決め	1	ガイドライン	8	コンサート招待券	1
9	手続き	1	サービス	7	スポーツ振興協会	1
10	—	—	マニュアル	6	ニーチェ全集	1

では、「書籍などの一面」という意味で、「1.17 空間」に分類されているが、実例の具体的な文脈を確認すると、「ホームページ」という意味で使われていたので、「1.31 言語」に分類した。

後接語を意味分野の大項目別を示すと表6のようになる。

表6 「本」の後接語の意味分野（大項目）語数と比率

大項目	異なり語数	比率	延べ語数	比率
1.1 抽象的關係	71	13.12%	908	27.97%
1.2 人間活動の主体	85	15.71%	429	13.22%
1.3 人間活動精神および行為	334	61.74%	1797	55.36%
1.4 生産物および用具	38	7.02%	72	2.22%
1.5 自然物および自然現象	13	2.40%	40	1.23%
合計	541	100%	3246	100%

「本」の後接語はすべてが「1. 体の類」に属する。「研究・報告・サービス」などのサ変動詞語幹になる用言類も「1. 体の類」に含まれている。「本」は、「心・言語・芸術・生活・交わり・待遇・経済・事業」が含まれる「1.3 人間活動精神および行為」を表す後接語ともっとも結合しやすく、延べ語数の55%、異なり語数の60%を超えている。「1.1 抽象的關係」の延べ語数が急増した理由は、「1.16 時間」を表す「年度」という語が564回出てきたからである。「1.4 生産物および用具」と「1.5 自然物および自然現象」を表す後接語の語数は比較的少なく、両者を合わせても、延べ語数の3.5%に達していない。

次に、「本」の後接語の意味分野の中項目について分析する。表7はその調査結果を示したものである。ただし、「問題」のように、複数の意味分野を持っている語が存在する。BCCWJから、「本問題」を37例収集した。そのうち、「数学の問題」の「問題」は3例で、「1.31 言語」に分類した。「社会問題」の「問題」は34例で、「1.30 心」に分類した。同じ語であるものの、複数の意味分野に分類されるケースがあるため、異なり語数の統計が困難になる。「問題」を2回数えるのは適切ではないし、1回だけ数えるのも、意味分野の違いが見られない。よって、ここでは、延べ語数としてのデータだけを示す。

また、延べ語数が100語を超える中項目に絞って、具体的にどのような語があるのかを表8のようにまとめる。延べ語数が100語を超える中項目は「1.30 心」（延べ語数878）、「1.16 時間」（同588）、「1.31 言語」（同389）、「1.27 機関」（同372）、「1.38 事業」（同155）、「1.35 交わり」（同116）、「1.10 事柄」（同114）の7つである。ただし、「1.4 生産物および用具」と「1.5 自然物および自然現象」には、100語を超える中項目が一つもなく、その語例を示すことができなくなるため、「1.4」と「1.5」を合わせて一つの項目として、先に述べた7つの中項目と並列して語例を示す。

「1.30 心」の比率は27.05%であり、もっとも多い。20%を超える中項目はほかにない。「1.30 心」をさらに詳しく見ると、「計画・案」「原理・規則」「研究・試験・調査・検

表7 「本」の後接語の意味分野（中項目）語数と比率

意味コード	大項目	中項目	延べ語数	
1.10	抽象的關係	事柄	114	3.51%
1.11		類	96	2.96%
1.13		様相	35	1.08%
1.15		作用	3	0.09%
1.16		時間	588	18.11%
1.17		空間	44	1.36%
1.18		形	16	0.49%
1.19		量	12	0.37%
1.23		人間活動の主体	人物	2
1.24	成員		4	0.12%
1.25	公私		7	0.22%
1.26	社会		44	1.36%
1.27	機関		372	11.46%
1.30	人間活動精神および行為	心	878	27.05%
1.31		言語	389	11.98%
1.32		芸術	87	2.68%
1.33		生活	12	0.37%
1.34		行為	25	0.77%
1.35		交わり	116	3.57%
1.36		待遇	85	2.62%
1.37		経済	50	1.54%
1.38		事業	155	4.78%
1.40	生産物および用具	物品	6	0.18%
1.41		資材	6	0.18%
1.43		食料	3	0.09%
1.44		住居	9	0.28%
1.45		道具	18	0.55%
1.46		機械	10	0.31%
1.47		土地利用	20	0.62%
1.51	自然物および自然現象	物質	5	0.15%
1.53		生物	2	0.06%
1.55		動物	1	0.03%
1.56		身体	2	0.06%
1.57		生命	30	0.92%
	合計		3246	100%

査など」を表す語が特に多い。第二位は588語で、18.11%を占める「1.16 時間」である。しかし、それは先にも述べたが、延べ語数が564の「年度」という語による影響である。その次は、「1.31 言語」の389語と、「1.27 機関」の372語である。ほかに延べ語数が100以上にあるのは、「1.38 事業」、「1.10 事例」と「1.35 交わり」である。残りの中項目の語数は比較的少ないといえる。

表8 延べ語数が多い中項目の具体例

	1.10 事柄		1.16 時間		1.27 期間		1.30 心	
	語例	語数	語例	語数	語例	語数	語例	語数
1	事件	82	年度	564	委員会	191	制度	104
2	免責条項	10	報告期間	9	連盟	16	法律案	104
3	条項	9	会計年度	7	国会	15	研究	86
4	個体	6	段階	2	調査会	12	調査	52
5	史料	2	調査年度	2	研究会	12	計画	46
6	案件	1	課程	1	小委員会	9	条約	40
7	現象	1	歴年	1	基金	6	問題	34
8	火災事件	1	学期	1	機構	5	条例	27
9	要求事項	1	場合	1	施設	5	決議案	22
10	データ	1	—	—	生活課	5	改正案	20

	1.31 言語		1.35 交わり		1.38 事業		1.4 & 1.5	
	語例	語数	語例	語数	語例	語数	語例	語数
1	通達	36	協定	48	事業	82	疾患	15
2	報告	28	分科会	9	連載	19	製品	13
3	資料	21	作戦	7	ソフト	15	トンネル	12
4	論文	20	サービス	7	特集	10	症候群	10
5	シリーズ	19	調停	5	業務	4	マンション	4
6	報告書	18	協約	5	工事	3	腫瘍	3
7	項目	16	定例会	4	航海	2	商品	2
8	全集	11	総会	3	技術	2	用紙	2
9	訳書	11	イベント	3	作業	2	建物	2
10	講座	10	会合	2	文庫版	2	遠心機	2

5. おわりに

BCCWJ より、連体詞型接辞性字音形態素「本」の合成語としては延べ語数 3246、異なり語数 541 のデータが得られた。

どのような語と結合して合成語になるのかを分析した結果、後接語の語種については、異なり語数も延べ語数も漢語・外来語・混種語・和語という順に語数が多いことがわかった。特に、漢語が圧倒的に多い。また、後接語の意味分野については、「心・言語・芸術・交わり・待遇・経済・事業」などを表す「1.3 人間活動精神および行為」の語が半数以上の比率を占めている。その中に、「1.30 心」という中項目の延べ語数がもっとも多い。

「本」と同じく連体詞型で、しかも類似している意味用法を持っているもう一つの接辞性字音形態素「当」がある。「当」と「本」のデータをもとにし、両方の比較分析を今後の課題としたい。

注

- 1) 下線は引用者によるものである。以下同様。
- 2) 後部分の接辞性字音形態素の分類は、本稿とさほど関係が見られないため、前部分の接辞性字音形態素の分類のみ示す。また、山下 (2013) をはじめ、意味による分類もあるが、前部分の接辞性字音形態素の分類は意味だけではなく、品詞性や後接語との結合関係なども重要な指標だと考え、野村 (1978) の分類を参考にした。
- 3) 野村 (1978) の分類はみずから指摘しているように、「さして厳密なものではない」(同：112) が、ここでは、問題視しないことにする。野村 (1978) の分類の問題点、ならびに、接辞性字音形態素の独自の分類はまた稿を改め論じることにした。
- 4) 「諸外国」の「諸」、「副総理」の「副」、「来シーズン」の「来」など、後接語の前にポーズが置かれず、一続きで発音されるものも少なからず存在する。
- 5) 「本年度」の「本」は、④連体詞型に分類されるが、「本」と「年度」の間にポーズが置かれず、一続きで発音される。異例ともいえる。
- 6) 「本」は品詞転換機能を持っていないため、後接語の品詞性については考察に値するものはないと思われる。

参考文献

[用例出典]

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) オンライン版. 国立国語研究所

[辞書類]

『新選国語辞典 第九版』. 金田一京助 他. 小学館. 2011

『分類語彙表 増補改訂版』. 国立国語研究所. 大日本図書. 2004

[引用文献]

野村雅昭 (1978) 「接辞性字音語基の性格」『国立国語研究所報告 61 電気計算機による国語研究Ⅳ』. pp.102-138. 秀英出版

山下喜代 (2013) 「接辞性字音形態素の造語機能」『現代日本漢語の探究』. pp.83-108. 東京堂出版

(ちょう・めい 博士後期課程)

付録 「本」の後接語および付加される情報の一覧表¹

後接語	出現数	語種	意味コード	大項目 ²	中項目
年度	564	漢語	1.16	抽象	時間
委員会	191	漢語	1.27	主体	機関
制度	104	漢語	1.30	精神	心
法律案	104	漢語	1.30	精神	心
研究	86	漢語	1.30	精神	心
事件	82	漢語	1.10	抽象	事柄
事業	82	漢語	1.38	精神	事業
調査	52	漢語	1.30	精神	心
協定	48	漢語	1.35	精神	交わり
計画	46	漢語	1.30	精神	心
条約	40	漢語	1.30	精神	心
通達	36	漢語	1.31	精神	言語
問題① ³	34	漢語	1.30	精神	心
判決	33	漢語	1.36	精神	待遇
隨筆	32	漢語	1.32	精神	芸術
報告	28	漢語	1.31	精神	言語
条例	27	漢語	1.30	精神	心
事例	25	漢語	1.11	抽象	類
システム	22	外来語	1.13	抽象	様相
決議案	22	漢語	1.30	精神	心
作品	22	漢語	1.32	精神	芸術
資料	21	漢語	1.31	精神	言語
改正案	20	漢語	1.30	精神	心
論文	20	漢語	1.31	精神	言語
基準	19	漢語	1.11	抽象	類
シリーズ	19	外来語	1.31	精神	言語
連載	19	漢語	1.38	精神	事業
法律	18	漢語	1.30	精神	心
報告書	18	漢語	1.31	精神	言語
連盟	16	漢語	1.27	主体	機関
プロジェクト	16	外来語	1.30	精神	心
項目	16	漢語	1.31	精神	言語
国会	15	漢語	1.27	主体	機関
ソフト	15	外来語	1.38	精神	事業
疾患	15	漢語	1.57	自然	生命

後接語	出現数	語種	意味コード	大項目 ²	中項目
プログ	14	外来語	1.32	精神	芸術
製品	13	漢語	1.45	生産物	道具
調査会	12	漢語	1.27	主体	機関
研究会	12	漢語	1.27	主体	機関
実験	12	漢語	1.30	精神	心
指針	12	漢語	1.30	精神	心
附帯決議案	12	漢語	1.30	精神	心
トンネル	12	外来語	1.47	生産物	土地利用
対策	11	漢語	1.30	精神	心
規定	11	漢語	1.30	精神	心
全集	11	漢語	1.31	精神	言語
訳書	11	漢語	1.31	精神	言語
免責条項	10	漢語	1.10	抽象	事柄
症例	10	漢語	1.11	抽象	類
断片	10	漢語	1.18	抽象	形
所見	10	漢語	1.30	精神	心
講座	10	漢語	1.31	精神	言語
実践	10	漢語	1.34	精神	行為
決定	10	漢語	1.36	精神	待遇
給水	10	漢語	1.37	精神	経済
特集	10	漢語	1.38	精神	事業
症候群	10	漢語	1.57	自然	生命
条項	9	漢語	1.10	抽象	事柄
報告期間	9	漢語	1.16	抽象	時間
地域	9	漢語	1.17	抽象	空間
小委員会	9	漢語	1.27	主体	機関
プログラム	9	外来語	1.31	精神	言語
分科会	9	漢語	1.35	精神	交わり
空港	8	漢語	1.26	主体	社会
事案	8	漢語	1.30	精神	心
文書	8	漢語	1.31	精神	言語
最判	8	漢語	1.36	精神	待遇
補正予算	8	漢語	1.37	精神	経済
会計年度	7	漢語	1.16	抽象	時間
都市	7	漢語	1.25	主体	公私
分析	7	漢語	1.30	精神	心

後接語	出現数	語種	意味コード	大項目 ²	中項目
記事	7	漢語	1.31	精神	言語
作戦	7	漢語	1.35	精神	待遇
サービス	7	外来語	1.35	精神	交わり
個体	6	漢語	1.10	抽象	事柄
系列	6	漢語	1.11	抽象	類
ペディメント断片	6	混種語	1.18	抽象	形
法廷	6	漢語	1.26	主体	社会
基金	6	漢語	1.27	主体	機関
基本方針	6	漢語	1.30	精神	心
白書	6	漢語	1.31	精神	言語
事故	6	漢語	1.33	精神	生活
指令	6	漢語	1.36	精神	待遇
取引	6	和語	1.37	精神	経済
モデル	5	外来語	1.11	抽象	類
フレームワーク	5	外来語	1.13	抽象	様相
単元	5	漢語	1.19	抽象	量
機構	5	漢語	1.27	主体	機関
方式	5	漢語	1.30	精神	心
答申	5	漢語	1.31	精神	言語
写真	5	漢語	1.32	精神	芸術
調停	5	漢語	1.35	精神	交わり
最大判	5	漢語	1.36	精神	待遇
契約	5	漢語	1.37	精神	経済
パターン	4	外来語	1.11	抽象	類
領域	4	漢語	1.17	抽象	空間
連合	4	漢語	1.27	主体	機関
規則	4	漢語	1.30	精神	心
提案	4	漢語	1.31	精神	言語
定例会	4	漢語	1.35	精神	交わり
裁判	4	漢語	1.36	精神	待遇
非課税	4	漢語	1.37	精神	経済
業務	4	漢語	1.38	精神	事業
マンション	4	外来語	1.44	生産物	住居
セクション	3	外来語	1.19	抽象	量
学園	3	漢語	1.26	主体	社会
環境管理課	3	漢語	1.27	主体	機関

後接語	出現数	語種	意味コード	大項目 ²	中項目
大綱	3	漢語	1.30	精神	心
問題②	3	漢語	1.31	精神	言語
実録	3	漢語	1.32	精神	芸術
十年	3	漢語	1.34	精神	行為
イベント	3	外来語	1.35	精神	交わり
最高裁判決	3	漢語	1.36	精神	待遇
資金	3	漢語	1.37	精神	経済
工事	3	漢語	1.38	精神	事業
腫瘍	3	漢語	1.57	自然	生命
史料	2	漢語	1.10	抽象	事柄
判例	2	漢語	1.11	抽象	類
事態	2	漢語	1.13	抽象	様相
調査年度	2	漢語	1.16	抽象	時間
地区	2	漢語	1.17	抽象	空間
地域個体群	2	漢語	1.19	抽象	量
研究所	2	漢語	1.26	主体	社会
市民協働推進課	2	漢語	1.27	主体	機関
研究プロジェクト	2	混種語	1.30	精神	心
書簡集	2	漢語	1.31	精神	言語
絵画	2	漢語	1.32	精神	芸術
評価作業	2	漢語	1.33	精神	生活
イニシアチブ	2	外来語	1.34	精神	行為
シンポジウム	2	外来語	1.35	精神	交わり
規制	2	漢語	1.36	精神	待遇
補助金	2	漢語	1.37	精神	経済
航海	2	漢語	1.38	精神	事業
商品	2	漢語	1.40	生産物	物品
用紙	2	漢語	1.41	生産物	資材
建物	2	和語	1.44	生産物	住居
マイク	2	外来語	1.46	生産物	機械
古墳	2	漢語	1.47	生産物	土地利用
ラテックス	2	外来語	1.51	自然	物質
現象	1	漢語	1.10	抽象	事柄
目的	1	漢語	1.11	抽象	類
構造	1	漢語	1.13	抽象	様相
機能	1	漢語	1.15	抽象	作用

後接語	出現数	語種	意味コード	大項目 ²	中項目
学期	1	漢語	1.16	抽象	時間
調査地	1	漢語	1.17	抽象	空間
患者	1	漢語	1.23	主体	人物
証人	1	漢語	1.24	主体	成員
病院	1	漢語	1.26	主体	社会
同盟	1	漢語	1.27	主体	機関
課題	1	漢語	1.30	精神	心
冊子	1	漢語	1.31	精神	言語
エッセー	1	外来語	1.32	精神	芸術
行事	1	漢語	1.33	精神	生活
会員権	1	漢語	1.34	精神	行為
企画展	1	漢語	1.35	精神	交わり
研究公募	1	漢語	1.36	精神	待遇
保険	1	漢語	1.37	精神	経済
取材	1	漢語	1.38	精神	事業
クーポン	1	外来語	1.40	生産物	物品
塗料	1	漢語	1.41	生産物	資材
抽出物	1	漢語	1.43	生産物	食料
文庫	1	漢語	1.44	生産物	住居
CD-ROM	1	外来語	1.45	生産物	道具
織機	1	漢語	1.46	生産物	機械
農園	1	漢語	1.47	生産物	土地利用
物質	1	漢語	1.51	自然	物質
酵素	1	漢語	1.53	自然	生物
猫	1	和語	1.55	自然	動物
毒素	1	漢語	1.56	自然	身体
症状	1	漢語	1.57	自然	生命

- 1 出現数が多い順に並んでいる。出現数が同じ場合は、意味コード順に並んでいる。紙幅の関係で、出現数が10までは全データを公開するが、10以下のデータは一部のみ公開する。同じ出現数、しかも同じ中項目の語は、その中の一語のみ代表として公開する。
- 2 「抽象」「主体」「精神」「生産物」「自然」は、それぞれ、「抽象的な関係」「人間活動の主体」「人間活動精神および行為」「生産物および用具」「自然物および自然現象」の略称である。
- 3 同じ語形が複数の意味分野を持っている場合がある。①②をつけて区別する。